

おはようございます。
長崎大学人、河野茂です。

日本小児感染症学会の理事長、日本ウイルス学会理事の森内浩幸先生（小児科教授）に、皆さんの気になっているワクチンの問題について聞いてみましょう。

新しいワクチン？効くの？危なくないの？いつまで打ち続けるの？

生命医科学域小児科学 森内浩幸

新型コロナのパンデミックが始まって僅か1年という驚異的なスピードでワクチンが開発され、広く接種されるようになってから間も無く2年が経とうとしています。
mRNA ワクチンという新しいタイプのワクチンでしたが、当初は発症予防効果が約95%と驚異的な有効性を示し、感染予防効果も80~90%ありそうだとということで、多くの人たちが接種することで十分な集団免疫を確立して日常の生活が戻って来ると期待されました。

しかし、ウイルスの方も驚異的なスピードで変異を繰り返し、次第にワクチンの有効性が落ちてしまいました。

幸い重症化を防ぐ効果は保っていますが、今のオミクロン株の大きな枝の中でも枝分かれ（変異）が続いて効果が長持ちしなくなり、早い人では3か月（特に高齢者や免疫力が落ちる基礎疾患がある人の場合）、長く持つ人でも5~6か月経つと効果が目立って落ちて来ます。そのため、追加接種の間隔も最低3か月と短くなりました。
また新しいワクチン（従来株対応の部分とオミクロン株対応の部分が半分ずつ含まれる2価ワクチン）も登場しました。

「またワクチン？」「新しいワクチンって効くの？安全性は確かめられたの？」「そんなに何度も接種して危なくないの？」～そういう声が聞こえて来ます。

でも、今シーズンはインフルエンザの流行も心配されていて、ワクチン接種も始まっていますが、インフルエンザワクチンもこれまでに何度も接種していますよね？

そしてインフルエンザワクチンは毎年の中身が入れ替わっています。

4価のワクチン（A型H1N1、A型H3N2、B型ビクトリア系統、B型山形系統）ですが、毎年次のシーズンに流行りそうな株を予測して入れ替えています。

毎年ワクチンは異なっていますが、新しくなったワクチンだからって「有効性や安全性は確かめられたのか？」なんて話にはなりません。

同じ製法で作ったワクチンを同じ量接種するのであれば、安全性に変化が生じることは非常に考えにくいし、有効性のデータは流行が終わってみなければ出て来ないのです。

もしも毎年中身が入れ替わるインフルエンザワクチンに対して「治験を行なって有効性や安全性を確かめてからじゃないと使わない」なんてことになると、もはやワクチンを使う機会がないままで終わります。

3年近く新型コロナのパンデミックが続いていますが、今後多くの人たちが実際に罹ったり接種を繰り返したりすることで集団免疫が強くなって来ると、次第に冬場だけに毎年流行するようになり（その頃には「新型」は取れて）、冬を前にインフルエンザとコロナのワクチン接種をハイリスクの人を中心に行うようになると思います。

そしてどちらのワクチンも、流行しそうな株に毎年中身を入れ替えたものになるでしょう。その時が本当の「With コロナ時代」到来だと思っています。

森内先生、わかりやすいコメント、ありがとうございます。

ぜひ、みなさん、参考にして、冷静に行動ください。

ネット上に多くのワクチンに関する情報がありますが、そのひとつひとつの情報の源を確認し、客観的・科学的に考える習慣をつけましょう。

本学の新型コロナ関連のワクチン接種に関する情報などは、適宜保健センターより発信する予定ですので、留意して頂ければと思います。